



# TCA

— NEWS —

Vol.107 2月号

発行  
富山市民国際交流協会  
〒930-0002 富山市新富町一丁目2番3号  
CiCビル3F富山市国際交流センター内  
TEL (076) 444-0642 FAX (076) 444-0643  
発行責任者 広報・組織強化委員会

## 国際交流フェスティバル2023 in TOYAMA

令和5年11月12日(日) オーバード・ホール／中ホール



**募集中です!!**

### 私たちの活動説明会

一緒に活動してみませんか?!

- 日時** 令和6年2月17日(土)  
14:00~15:30
- 場所** 富山市国際交流センター
- 内容** 活動説明、体験談発表、  
ティーパーティー
- 参加費** 無料



### 多国言語文化交流クラス

#### 「ケニア&スワヒリ語」

- 講師** Ms. Winnie Elizabeth Akinyi
- 日時** 令和6年3月2日(土) 13:30~15:00
- 場所** 富山市国際交流センター
- 定員** 24名
- 参加費** 会員無料(一般300円)

※講義は英語で日本語の通訳があります。



## 国際交流フェスティバル2023 in TOYAMA

共催／富山市民国際交流協会、(公財)とやま国際センター、JICA北陸

**11月12日(日) オーバード・ホール／中ホール**

今回は「異文化理解と交流」をテーマに、7月にオープンしたオーバード・ホール／中ホールを会場に開催しました。

新型コロナウイルスの影響もあり、従来の規模に戻しての開催は、4年ぶりです。

開会式では、主催者を代表して富山市民国際交流協会 庵会長の挨拶に続き、富山市長（代理：副市長 今本雅祥様）からご祝辞をいただきました。オープニングのパラグアイのボトルダンスは、とても美しくて華やかでありながら力強さも感じられるダンスでした。

世界の『ありがとう』のことばを集める「ありがとうコレクション」やスタンプラリーも復活して、来場した子供たちはもちろん、大人の皆さんも楽しそうに会場をまわっていました。

民族衣装の試着体験コーナーは、年賀状用に試着撮影が人気で、用意した衣装の試着を全制覇する来場者もありました。

事前PRもしてはいたものの、当日は雨模様なうえ、初めての会場ということで不安でしたが、10時の開始と同時に多くの方が来場し、うれしい悲鳴でした。

今後も中ホールを会場にとの声が多数あり、いい反響でした。



### 観る・聴く

外国人のカラオケ大会から始まって、各国の様々な歌や踊り、演奏を聴くことができる贅沢な時間でした。

今回は、中ホールを平土間仕様にしていたので、ステージと客席との一体感をより強く感じました。中でも、ベトナムのバンブーダンスは、リズムに合わせて間近に迫ってくるかのようでした。他にも個性溢れる内容に用意した客席は埋まり、立ち見の方も多くいました。

着物ファッションショーでは、初めて振袖を着た外国の女性たちのコメントを聞いて、改めて着物の素晴らしさを感じました。

後半は、トーゴの音楽やアンデス民謡などプロの演奏に心が癒され、満ち足りた時間を過ごすことができました。



## 交流する

各国紹介ブースでは21カ国のブースがあり、スタッフがさまざまなツールを使って自国を紹介。来場者は、普段なかなか話す機会のない国の人たちとの会話を楽しんでいます。

ハワイアンカフェやホワイエでは、皆さんがテーブルを囲み、コーヒーや各国の料理、会話を楽しんでいます。



## 知る

20の国際交流・協力団体が、パネル展示やチャリティーバザーを通じて、それぞれの活動を紹介しました。各団体の活動を広く一般に紹介し、また団体同士の情報交換の場としても良い機会でした。今年は、団体ブースがステージなどのプログラムと同じ会場だったので、より一体感があり、スタッフもステージを楽しみながら会話をすることができたようです。

## 体験する

世界各国の民族衣装や着物、消しゴムはんこ、ブラジルの楽器作り、中国結芸作り体験がありました。入口のホワイエでは、ヘナ\*体験には多くの人が列をなして大人気でした。

着物体験コーナーには多くの外国人の参加があり、通訳を介しながら日本の着物や暮らしについて和やかな会話が聞かれ、良い国際交流ができたと思います。振袖の着付けをしてくださったボランティアスタッフの皆さんに感謝しています。限られた着付け小物の中で、柔軟な対応と最大限のアイデアにより、一人一人を素敵な晴れ姿に変身させていただきました。

※ヘナ…結婚式やお祭りで、女性たちを飾る ボディーペインティング



## ステージ

- |                                |               |
|--------------------------------|---------------|
| ①開会式                           | ⑦ベトナムバンブーダンス  |
| ②オープニングパフォーマンス<br>パラグアイのボトルダンス | ⑧着物ファッションショー1 |
| ③各国ブース紹介                       | ⑨マレーシアの踊り     |
| ④外国人カラオケ大会                     | ⑩トーゴの音楽       |
| ⑤ジャグリング                        | ⑪着物ファッションショー2 |
| ⑥ネパールの歌と踊り                     | ⑫アンデス民謡       |
|                                | ⑬閉会式          |



## 社会に学ぶ『14歳の挑戦』～芝園中学校2名～

9月25日(月)～28日(木)

### ～お礼状抜粋～

4日間で特に印象に残ったことは、「利用者の方々への配慮」です。いろいろな国の方がいらっやって本や資料を閲覧なさいます。その際に、気持ちよく閲覧してもらうために、全部ずらして、一冊一冊丁寧に拭き、なおかつ棚も拭きました。いらっやる方への配慮が大切だとわかりました。その他に、ハンコ押しやシュレッダーなどを少しでも手の空いているときにやることで、一つずつ仕事をこなしていくのだと知りました。

今回の体験を通して学んだことを、生活の中で活かしていきたいと思います。



## 外国語ボランティア養成講座 実地研修(英語・中国語・韓国語)



“とやま1日乗り放題きっぷ”で行く『新湊・射水ベイエリア』!

8月26日(土) 参加者48名 あゆの風新湊観光ボランティア4名

訪問場所

新湊・射水ベイエリア

(あいの風プロムナード、富山県渡船、新湊きつときと市場、内川、Salt & Light ほか)

集合場所の富山駅から「とやま1日乗り放題きっぷ\*」を使って、まずは高岡駅に到着。全員が駅に到着した後、英語、韓国語、中国語グループに分かれ、駅前のドラえもん広場でキャラクターの銅像を見学した。その後万葉線に乗り越ノ瀨へ。到着後、新湊大橋「あいの風プロムナード」まで行き、参加者が、観光ボランティアの方の説明を養成講座の座学の内容を思い出しながら各言語で説明していく。次にフェリー(富山県営渡船)で堀岡に渡り、自分で作った船で母国オーストラリアに帰るといふ壮大な夢を持つケビンさんの工房「Salt & Light」で製作中の双胴船を見学。そのスケールの大きさに驚きながら、ケビンさんの説明を聞いた。フェリーで越ノ瀨に戻った後、万葉線に乗って新湊きつときと市場に行き、おいしい食事とたっぷりの休養を取った。再び万葉線で内川に行き、歩いて散策。観光ボランティアの方々の詳しい説明のおかげで、初めて知ることが多く大変になった。少なくとも200リットルの汗をかくような暑さではあったが、とても楽しい一日だった。

※とやま1日乗り放題きっぷ 令和5年度中の土・日曜、祝日 大人1000円 子ども500円

## 外国語ボランティア養成講座 後期～とやまの生活編～

とやま市民交流館・当センター(第1部は講演、第2部は英語・中国語の語彙、表現練習)

### 第1回 「健康まちづくり」 10月28日(土) 参加者38名

第1部

講演 「医療・福祉・健康」の拠点、総曲輪レガートスクエア・富山市まちなか総合ケアセンターの機能について

講師 認定NPO法人まちづくりスポット まちスポとやま 中川 翔平さん

富山市まちなか総合ケアセンター 所長代理 竹内 依公子さん

学校再編で空いた小学校跡地に建てられた「レガートスクエア」は、乳幼児から高齢者までが安心して暮らせるよう「健康・子育て・教育」をキーワードにした複合施設で、内部にはいくつもの建物が存在する。青池学園と富山市医師会看護専門学校の2つの学校、フィットネスセンターの「グンゼスポーツ」、同じ建物内にある障害者就労支援センター「新草会」、多世代交流のための「まちスポとやま」、イベントやワークショップに使えるギャザリングスペース、そして最後に、多くの施設がある「富山市まちなか総合ケアセンター」である。

このケアセンターには家庭で病気の子どもを見ることが困難な親が一時的に子どもを預けられる「病児保育室」、訪問診療専門の「まちなか診療所」、医療相談や介護相談ができる「医療介護連携室」、多世代の市民が交流できる「まちなかサロン」、生後4カ月までの赤ちゃんを持つ母親のための「産後ケア支援室」、健康づくりや介護予防、在宅医療・介護の研修などを行う「地域連携室」、心身の遅れが心配される児童生徒の早期支援と保護者の不安解消のための相談の場を提供できる「こども発達支援室」などがある。

### 第2回 雪への備え 11月25日(土) 参加者42名

第1部

講演 「北陸地方の大雪の備え」

講師 富山地方気象台 観測予報管理官 山岸 昌伸さん



大陸からの冷たく乾燥した風は、朝鮮半島の高い山々によって吹き分けられ、日本海で再び集まる。これは日本海寒帯気団収束帯(Japan sea Polar air mass Convergence Zone: JPCZ)と呼ばれ、低気圧と重なると大雪となる。

令和3年は3日間で100cmを超える積雪となり、これまでの大雪に比べ急激な積雪の増加であった。このようなことを踏まえ、数日前から発表される気象情報や早期注意報、警報などを、テレビの天気予報だけでなくWebサイトでもしっかり捉えることが大切。大雪に備えて、外出のルートや日程などの見直しをしたり、品切れが予想される除雪用具、防寒具、ラジオ、飲料水、食料の事前準備をあらかじめしておくこと、そして水道管の凍結対策も重要である。

## 富山市総合防災訓練

### 災害時外国人支援語学ボランティア研修会および事前研修会

9月9日(土) 参加者24名



前半は富山市における外国人住民の現状、避難所におけるやさしい日本語の意義、防災訓練当日の流れ、通訳の心得など説明があり、後半は語学研修が行われました。研修では、4グループに分かれて、外国人参加者4名が各グループに入り、グループ毎に災害時に必要な語彙や表現の確認、外国人避難者の聞き取り、個人カルテを作成する練習をしました。その後、情報発信のため災害対策本部からの情報に優先順位をつけた後、翻訳に取り組みました。最後に、多言語版富山市防災（避難所場所）マップを使って、外国人参加者に、自宅近くの避難所について説明をしました。

## 富山市総合防災訓練に参加

10月1日(日) 旧上条小学校周辺(富山市水橋石割)

参加者 日本人19名・外国人8名



この訓練への参加は、通訳ボランティアの訓練であると同時に、外国人参加者にとって、各機関が「災害に備えてどのような取組をしているか」を知る機会であり、参加機関や一般参加者にとっては、「外国人住民が避難してくる」ということを知ってもらう機会でもあります。

今年は、英語とやさしい日本語<sup>\*</sup>での訓練を実施しました。外国人参加者向けのオリエンテーション、医師会・保健所と連携した通訳訓練、避難所巡回訓練、災害対策本部からの情報の翻訳・掲示訓練を実施しました。体験コーナーでは、簡易トイレや非常食、段ボールベッド組み立ての見学、感電体験、給水車による給水、炊き出しの試食を体験しました。

※「やさしい日本語」とは、日常生活で使われている言葉を、外国人にも分かるように配慮した簡単な日本語のことです。災害発生時に、日本語が不慣れな外国人に、迅速かつ正確に情報を伝えることを目的に考案され、当初は、災害時の情報伝達手段として使われていましたが、現在では、自治体や外国人支援団体で、生活情報や観光情報などを伝える手段としても使われるようになりました。

## MPBで学ぶポルトガル語講座 講師 白川 セリナ サナエさん

9月11日(月) Eu Bebo Sim / Elizeth Cardoso ええ、私は飲むよ/エリゼッチ・カルドーゾ

10月 2日(月) 国際交流フェスティバルの打ち合わせと演奏の練習

12月11日(月) ポルトガル語によるカラオケ大会

9月と10月の教室は、ほぼ国際交流フェスティバルで演奏する曲の練習に費やされた。ガンザーというマラカスに似た楽器をシャカシャカ振りながら歌うのだが、テンポの速い曲ほど難しい。

フェスティバル当日は、乳酸菌飲料のプラスチック容器にお米を入れたガンザーを参加者と一緒に手作りし、演奏するワークショップが行われた。

12月は、ネット上にたくさん存在するポルトガル語のカラオケ曲から各自が好きな歌を選んで歌った。中でもフェスティバルのために練習を積んだ曲はみんなそらで歌えるほど上達しており、大合唱して盛り上がった。

### 文化交流委員会

ミニ門松作り体験に参加して

スプリヤ・ピプル

こんにちは。インド出身のSupriya Pipilです。2011年から第2の故郷として日本に住んでいます。日本の豊かな文化にいつも魅了されています。年末にはスーパーマーケットが装飾に彩られた賑やかな空間に変わり、好奇心を掻き立てられます。

12月17日にはTCA、森の寺子屋メンバーで「ミニ門松作り」を企画いただき、本当に感謝しています。外国人に日本の伝統的な新年飾りのひとつである門松を紹介するというワークショップでしたが、参加者各々が自分でミニ門松を作り、日本の年末のお正月準備の雰囲気を感じました。

ワークショップの間、門松に使われる植物が長寿と家族の繁栄を意味するということを考えていました。クリスマスから1月7日まで一対の門松を家に飾るそうですが、富山の熟練した職人によって巧みに切り出された3本の竹は、驚くほど強く丈夫でした。また使用されている植物はすべて自然溢れる素晴らしい里山から採ってきたものでした。

一番驚いたのは、いろいろな国の人がミニ門松作りに参加していたことでした。日本とは違う文化を持った参加者の皆さんが楽しそうに新年の飾りを製作している姿は、たいへん興味深かったです。とても素晴らしい体験でした。

P8 英文の訳文です

# 委員会報告

総務企画・姉妹友好都市

総務企画委員会「国際交流TCAカレッジ」・姉妹友好都市委員会「特別講座」

サモアを知ろう!! ～ JICA海外協力隊が見た世界～

参加者13名 11月22日(水)

コーディネーター 金岡 紀子さん (JICA 富山デスク 国際協力推進員)

パネリスト 下村 晃世さん (小学校教育)・野村 正竜さん (理数科教師)

協力隊経験者のお二人にお話しいただいた中で、印象的な内容がいくつかありました。

## 1 マタイ(首長)は絶対的な存在という『マタイ制度』

サモアの刑務所は週休2日のため、週末になると受刑者たち(殺人など重罪犯含む)はそれぞれの村に戻り、マタイが面倒を見るそうです。その間逆らったり、逃亡したりすることなく、月曜になると皆バスで刑務所へ帰っていくそうです。

また、末娘が家族の面倒を見る習わしがあるので、男の子ばかりだと、マタイが「この子を女の子として育てなさい」と決めるらしく、第3の性を受け入れる土壌がサモアでは早くから確立されていたようです。

## 2 育てるといふより育てる、植えっぱなし農業

家の周囲に常に食べるものがあるので困らない。困らないから塩漬けなどの保存方法や、ダシを使ったり、よりおいしく食べる工夫もしないそうで、ジェンダーに関する進み具合と食に関することとのギャップが、サモアと日本での物事の優先順位の違いだと感じました。

## 3 みんなで生きているので野垂れ死にがない

お二人は任期中、「なんでそんなに忙しくしてるの?」とか「のんびりゆっくりした方がいいよ」とサモアの人に言われたそうです。当たり前前の小さな幸せに気がつけることや他者を受け入れる寛容さ、日本がここ最近、懸命に唱えている多文化共生がサモアではすでにできていると感じました。

参加者の事後アンケートにあった「途上国が必ずしも乏しい国ではないと思います」が、まさしく的を射た一文でした。



姉妹友好都市

米国ノースカロライナ州ダーラム市から富山へ訪問

参加者18名

9月24日(日)

富山市の姉妹都市である米国ノースカロライナ州ダーラム市から6名が訪れました。何名かは再訪で、当協会のメンバーとも顔見知りの間柄です。

朝10時ANAクラウンプラザホテルで待ち合わせ、協会側からは国際教養委員会の英語通訳・ガイド実践クラスのメンバー神保先生以下数名が参加し、まず富山城址公園を散策。城内の日本庭園や石垣、城門などを説明、米国には無い日本文化に感銘を受けたようでした。さらに富山市庁舎の展望台に上がり立山連峰の山並みを眺望、その絶景に感動されたようです。

そこから富山駅まで歩き、駅ビル内の「八兆屋」にて昼食。ここで当協会の姉妹友好都市委員会のメンバーと合流、日本食をいただきながら、久しぶりの交流を深めることができました。一行はここで解散し、それぞれのルートで帰途につかれました。



文化交流

華道体験

参加者19名

10月15日(日)

この数年は早春に実施していた華道体験ですが、今回は季節を変えて秋に行いました。

コロナ禍中も人気のイベントでしたが、日常生活が戻った本年も多くの外国の皆さんに参加いただきました。豪州原産のカンガルーポーとカーネーションを花材として、4名の先生方の丁寧なご指導とサポートのもと、参加者が思い思いにお花を活けていきました。

外はにわか雨が降ったりお日さまが出たりと秋の移ろいやすい天気でしたが、会場内は終始和やかな雰囲気でした。



ボランティア

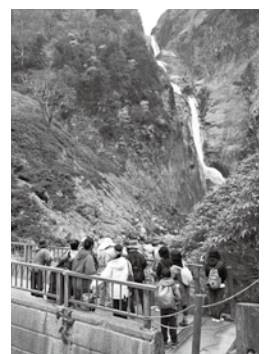
とやま巡り 一緒に、楽しくとやまを巡りましょう! 称名滝

参加者14名

11月4日(土)

秋晴れのこの日、中国、韓国、オーストラリア、日本の4ヶ国14名で称名滝の散策を楽しんできました。

ナチュラリストの大野博美さん(当協会ボランティア委員会委員長)に、称名滝について、また、地形の成立や草木の事を教えていただきながら称名滝へ到着。雄大な滝を眺めながらマイナスイオンを浴び、紅葉の山々の中、秋の飾りや落ち葉を踏みしめる音と五感で秋を感じることができました。お昼は手作りの彩りにあふれた美味しいキンパ! 目の保養、自然に関する教養、そして心とお腹への栄養と3つの養分をたっぷり心身にとりいれた楽しい時間でした。



## 講師 ケイティ・アン・ハウトンさん

富山・キャンベラ日豪ガラス作家相互交流事業で富山に滞在されているケイティさんに、オーストラリアの文化やガラス作品についてお話をお聞きしました。

オーストラリアはとても暮らしやすく、仕事があり、物価は高いですが、最低賃金は高く、インフラも整っています。面積は米国とほぼ同じですが、国土のほとんどが砂漠のため人口が2500万人と少なく、ほとんどの人が海岸に住んだり、内陸の村で農業に従事したりしています。ケイティさんのお父さんの実家は稲作農家で、おじいさんから聞いた話によると、以前日本企業の視察があったときに、農場のほんの一部をただけで(40の田んぼの内1枚)、その大きさにたいへん驚いていたそうです。

オーストラリアには長い歴史があります。先住民アボリジニは何万年以上も前からこの土地に暮らしていました。伝統文化は、ダンス、語り、歌、芸術を通して受け継がれてきました。1788年、英国がオーストラリアに囚人船を送り、植民地化が始まりました。これによって先住民は壊滅的な打撃を受け人口が激減し、2023年現在人口の3.8%となっています。オーストラリアでは、先住民の声を政策に反映しやすくするための機関創設を含む憲法改正の是非を問う国民投票\*が実施されることになりました。\*国民投票は10月14日(土)実施され、否決された。



## 講師 大浦 オアナ マダリーナさん

北海道とほぼ同じ緯度にあり、富山に着いて驚いたのは、ルーマニアの実家と植生が似ていることでした。桜の木はないですが、リンゴが栽培されていて、その花は桜や梨の花に似ています。ルーマニアの特徴は、東欧唯一のラテン民族であることで、そのため言語はイタリア語やポルトガル語によく似ています。美容大国としてエステも有名です。

パーティーやイベントが大好きで、主な料理はサルマーレ、ミティミティなど肉料理が多く、中でも豚肉をよく食べ、ワインも有名です。土壌が良いため、多くの野菜や果物が栽培されています。

学校は、3カ月の夏休みやイースター休暇など、多くの休暇があります。日本では相手を思いやる教育が基本であるのに対し、ルーマニアでは自分で守る、自分が一番ということが大きな違いです。また、日本人はサッカーやラグビーで「頑張れ」という言葉をよく使いますが、ルーマニアでは「急いで、行け行け」という言葉はありますが、「頑張ってください」という言葉はありません。

最後に、最近出席された結婚式の動画を見せてくださいました。ルーマニアの結婚式は、長時間あり、ダンスタイムがあるのが特徴だそうです。



8月8日(火)



Mr. Alexander Galdamez  
(米国出身)

Topic: "Pastiche, Satire, and Parody"

10月3日(火)



Mrs. Leslie Yogue-Calixtro  
(フィリピン出身)

Topic: "It's more fun in the Philippines"

11月7日(火)



Ms. Dresden Hope Paned  
(フィリピン出身)

Topic: "Legacy of Colonization in the Philippines"

国際教養委員会では  
中国語など  
いろいろな  
講座があります。



## 新規会員募集中！

富山市民国際交流協会では、市民のみなさんが幅広く参加できる国際交流を推進するため、新規会員を募集しています。みなさんも私たちと一緒に、富山市の良さや国際交流の楽しさを発見しましょう！

ご入会特典

- ★協会広報誌TCA-NEWSをお送りします。
- ★各種イベントのスタッフとしてボランティア活動に参加し、外国の方と交流できます。
- ★語学講座や研修旅行、講演会に参加できます。

## 年会費(一口)

個人会員 3,000円 家族会員 5,000円  
優待会員\*

大学生(短大生、専門学校生を含む) 1,500円  
高校生 500円  
法人・団体会員 10,000円

※優待会員は令和5年度新設

※休館日(2月~3月) 2月5日(月)・6日(火)・7日(水)、3月19日(火)

ミニ門松作りに参加して



Supriya Pipil, Ph.D.

Hello! I am Supriya Pipil from India, living in Japan as my second home since 2011. Japan's rich culture always mesmerizes me. As the year ended, Japanese supermarkets turned into lively spaces adorned with decorations, sparking my curiosity.

I want to express my heartfelt thanks to Toyama Cosmopolitan Association and Toyama Forest Club for organizing the 'Mini Kadomatsu Making' workshop on December 17, 2023, for foreigners and TCA members. The workshop showcased various Kadomatsu decorations, a highlight of year-end celebrations and its main intention was to introduce foreigners to the traditional Japanese Kadomatsu, symbolizing the New Year.

During the workshop, we explored the meanings behind each plant in Kadomatsu, representing longevity and prosperity for families. From Christmas until January 7th, pairs of Kadomatsu proudly grace homes. Crafted from three bamboo pieces skillfully cut by Toyama's expert bamboo cutters, these bamboos were impressively strong. All plants used were sourced from the charismatic Satoyama.

What amazed me most was the diverse participation of foreigners. Toyama, where such a multicultural gathering was a curiosity for me, saw everyone creating delightful New Year parting gifts. The experience was simply fascinating.

※日本語訳はP5にあります。



## 世界のこゝろ エジプト編



Khaled Ghandour, Ph.D.



エジプト出身のカレド・ガンドゥールです。2015年来日し、2019年に富山大学で神経科学の博士号を取得しました。寿司、刺身、そしてサッカーが好きです。今回、エジプトのこゝろを紹介します。

## 1 - القرد فى عين امه غزال

The monkey is a gazelle in the eye of his mother.  
母親の目には猿がガゼル\*と映る。

-母親はいつも自分の子供をとてと美化して見ている。  
(母親は自分の子供が猿であっても、美しいガゼルのよう  
に見ている)。親の欲目 ※ウシ科の動物でカモシカに類似している。

## 2 - القرش الأبيض ينفع فى اليوم الأسود

The Shiny money will benefit on the black day.  
光り輝くお金は黒い日に役に立つ。

-お金(銀のお金)を貯めておくと、いざという時に役に  
立つ。常にお金を貯めておくべきだという意味。

富山に住む外国のひとたちへ

## 雷鳥だより

Vol.6号(9月)・Vol.7号(12月)  
発行しました。

6号

P1

P2 ~3

P4

7号

P1 ~2

P3

P4

イベント紹介

地震が起きたら

総合防災訓練への参加

呉羽丘陵を歩きましょう。

日本のお正月

呉羽丘陵月いちウォーク

冬のイベント紹介



令和6年1月1日に発生しました能登半島地震で、被災されたみなさまに心よりお見舞い申し上げます。  
また、被災者の救済と被災地の復興支援のために尽力されている方々に深く敬意を表します。  
わたしたちの生活が一日も早く平穏に復することを願います。

令和5年度

## とやま国際交流草の根交流賞受賞



堀田 順子さん

おめでとうございます



## 編集後記

雪の季節が巡ってきた。近年“警報級の大雪”という表現をよく聞く。「地球温暖化なのに大雪？」と思うが、自然の摂理はそう単純ではないらしい。短期集中型のドカ雪が増える一方、年間降雪量は減っているとも聞く。ある事象は他の多くの事象と関連し多様な側面を持つ。日常生活においても然り。何事も一面だけで判断せずに、全体像を捉えようとする気持ちを大事にしたい。“龍”のように、大空から俯瞰する眼を持ちたいものだ。(浦野)